



八色の森公園



銭淵公園



魚沼地域に安心して暮らせる
医療体制の未来をつくりたい。



八海山



牧之通り



新潟大学地域医療教育センター

魚沼基幹病院

病院案内 k i k a n



地域全体でひとつの病院



新潟大学地域医療教育センター
魚沼基幹病院

一般財団法人 新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院
〒949-7302 新潟県南魚沼市浦佐4132
Tel 025-777-3200 (代) Fax 025-777-2811

魚沼基幹病院は、新潟県が設置し、一般財団法人新潟県地域医療推進機構が運営する病院です。

病院に併設される新潟大学医学総合病院魚沼地域医療教育センターと連携し、地域医療に貢献する医療人の育成にも力を注ぎます。

*掲載情報は2023年7月現在の内容です



魚沼地域
医療の輪
地域全体でひとつの病院



国内外に誇れる地域医療の技術と質を追求し

優れた医療人の育成に貢献することで

地域をつなぎ、いのちをつなぎます。



「地域全体でひとつの病院」について

医療資源が不足している魚沼医療圏では、医療機関が担う機能を明確にして、機能を分担することが必要です。「地域全体でひとつの病院」という理念のもと、地域完結型医療を目指します。



魚沼地域
医療の輪
地域全体でひとつの病院

地域をつなぎ、いのちをつなぐ

理事長 / 病院長
鈴木 榮一



魚沼産コシヒカリやおいしいお酒で広く全国に知られる魚沼は、有数の豪雪地帯で広大な面積を有していますが、四季の自然や歴史、観光、そして温泉にも恵まれた地です。

長年にわたる関係者の熱い思いが実を結び、魚沼の医療再編により、平成27年6月に魚沼基幹病院は開院しました。魚沼地域で提供すべきすべての領域の医療を担い、救急医療の拠点として安心できる医療を地域で完結させ、周辺医療機関との役割分担を明確にしてその連携を推進・強化することで、まさに「地域全体でひとつの病院」を実践することを目指しています。さらに、医師や看護師の教育・研修をはじめとした「医療人の育成」も当院の大きな役割と考えています。

本院が目指す「地域医療連携」



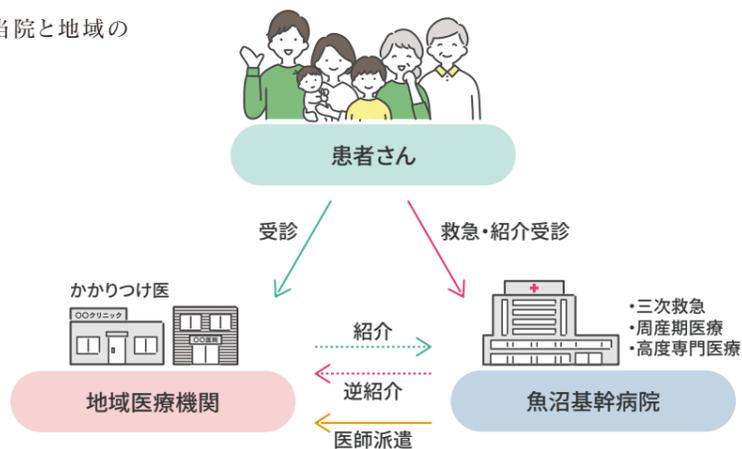
本院が目指す「地域医療連携」は、地域の限られた医療資源を有効に活用し、医療機関がそれぞれの得意分野を活かしながら、地域全体で医療を完結させることです。

1 地域の医療機関との役割分担

地域医療連携を進めるための取り組みの一つが、本院と地域の医療機関との役割分担です。

地域における本院の役割

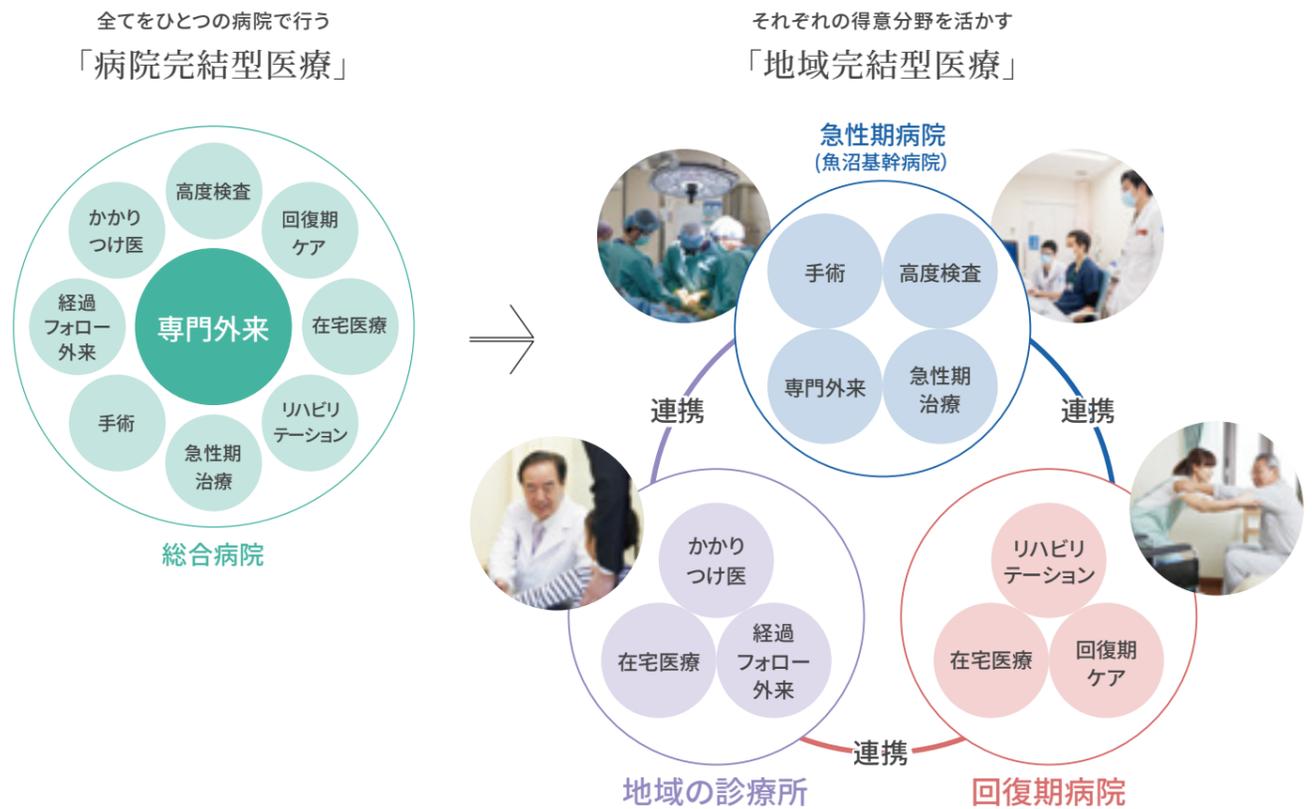
- 救命救急・外傷センターが三次救急(重症・重篤患者さん)に対応します。
- 地域周産期母子医療センターが魚沼圏域の周産期医療を担います。
- 地域がん診療連携拠点病院としてがんの専門治療を提供します。
- 地域に不足している診療科において専門医による高度な専門医療を提供します。



2 地域病院への医師派遣

もう一つの取り組みは、地域の病院への医師派遣です。本院は、小出病院・十日町病院・南魚沼市民病院・五日町病院に、毎月約80人の医師を派遣し、医師を派遣した地域で専門性の高い医療が受けられる体制づくりに取り組んでいます。これにより、例えば、十日町にお住まいの方が十日町病院に必要な検査を行い、病状によっては本院に転院して高度専門医療や急性期医療を受けることができます。逆に本院から退院してもお住いの地域の病院に通院して治療を続けることもできます。地域住民が住み慣れた地域で医療が受けられるように、医療連携や情報共有をよりスムーズにすることで地域の医療機関と一層の連携を進めていきます。

●病院完結型医療と地域完結型医療について



地域の限られた医療資源^{※1}を有効活用するためには、ひとつの病院で全ての医療ニーズ^{※2}に対応する「病院完結型医療」ではなく、医療機関がそれぞれの得意分野を活かし、地域全体で対応する「地域完結型医療」が求められています。

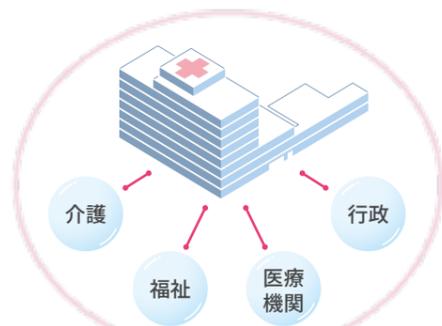
※1 医療資源: 医師・看護師・薬剤師などの医療スタッフや医療施設

※2 医療ニーズ: 入院・手術・高度医療・専門外来・リハビリテーション・初期診療・健康管理・経過観察等

「地域医療連携の加速」と「その先の地域連携へ」

「地域全体でひとつの病院」の実現には、病院・施設間の理解や協力が不可欠です。また、地域包括ケアシステムを支えるためには、医療だけでなく介護・福祉等との連携も必要です。地域連携推進室は、本院と各医療機関、介護・福祉施設、行政等の関係機関との架け橋の役割を担い、相互の知識・技術の向上を目指します。

患者さんの紹介や相談等に関することは、患者サポートセンターが窓口となっています。お気軽にお問い合わせください。



「うおぬま・米ねっと」は情報共有で地域医療連携を促進します

医療介護連携ネットワーク「うおぬま・米(まい)ねっと」は、患者さんの検査内容や処方された薬剤の情報を、連携する医療機関が共有できるようにするシステムです。紹介元の医療機関で行った治療や検査を紹介先の医療機関で確認することができるので、重複検査を減らしたり、より安全で効率的な服薬のサポートができる等のメリットがあります。さらに救急搬送時にも、迅速かつ適切な治療の提供が可能になります。

本院は、「地域でひとつの病院」の実現のため、うおぬま・米ねっとを活用した診療を行っており、地域のみなさまに「うおぬま・米ねっと」へのご加入を推奨しています。



地域急性期医療の砦 「救命救急・外傷センター」

救命救急・外傷センターは、救急外来(ER:Emergency Room)と、集中治療室から構成されています。
断らない救急医療と救命率向上を目標に24時間365日奮闘しています。



当院が開院する前、医療資源が乏しかったこの地域では、重篤で緊急性の高い患者さんの多くが中越地域(主に長岡)に搬送されていました。こうした問題に対応するため、当院に救命救急・外傷センターが設置されることになりました。当院開設以降、敗血症性ショックや重症外傷の対応も可能となり、中越地域への搬送件数も少なくなりました。

また、ここ魚沼地域は広域で、降雪量も多いので、救急隊との連携がとても重要です。当院の医師も魚沼地域メディカルコントロール協議会に参加し、メディカルコントロール体制の充実による地域の救命率向上と更なる地域完結型救急医療の実現を目指しています。

●魚沼地域メディカルコントロール協議会に参画しています

メディカルコントロールとは、救急現場から、救急病院等の医療機関へ搬送されるまでの間、救急救命士を含む救急隊員が行う応急措置等の質を保证するためのシステムです。

当院は魚沼地域メディカルコントロール協議会に参画し、定期的に救急救命士のための勉強会を開催しています。

救急救命士に対する指示体制や救急隊員に対する指導・助言体制の調整、救急活動の事後検証、救急救命士の実習・研修の機会づくり等の活動を通して、魚沼地域でのメディカルコントロール体制の充実および、地域の救命率向上を目指しています。



詳しくは
こちら



●救急外来と集中治療室で、 緊急性の高い重篤・重症患者さんに対応します



救急外来 (ER:Emergency Room)

24時間365日体制で、ドクターヘリや救急車で搬送された患者さんや、ご自分で来院された患者さんを受入れ、救急科や総合診療科当番の医師がファーストタッチを行い、その後、専門科の医師に引き継ぎます。



集中治療室

高度医療や集中治療を必要とする患者さんや全身管理を必要とする患者さんの他に、夜間入院の患者さんを受入れます。

疾患名	内容
重傷外傷	緊急手術や経皮的動脈塞栓術など、様々な治療戦略で対応します。
急性薬物中毒	農薬から家庭用製品まで、あらゆる中毒に対応します。
急性内因性疾患	各臓器専門医と協力しながら、最善の治療を行います。
重症敗血症	全身状態の管理と適切な抗生剤治療、必要に応じてドレナージなどを行います。
重症熱傷	適切な全身管理を行い、各科とも連携し治療にあたります。

災害派遣医療チームDMATとして



ディーマット DMATとは、Disaster Medical Assistance Teamの略で、地震などの自然災害や、航空機・列車事故などの際に被災地に迅速に駆けつけ、救急治療をおこなうための専門的な研修・訓練を受けた「災害派遣医療チーム」のことをいいます。

当院では医師、看護師、調整員として数十名がDMAT隊員として登録されており、有事には災害支援へ駆けつけます。

地域完結型医療を支える「高度医療」

病気を理由にやむを得ず魚沼地域から離れるという人を、一人でも減らすために。

●地域周産期母子医療センター

魚沼地域の皆様に安心して出産を迎えてもらえるように

地域周産期母子医療センターは、魚沼地域で安心して子どもを産める医療を提供することがその大きな役割で、産科部門と新生児部門から成っています。

開院前にはハイリスク妊娠・分娩の可能性のある妊婦さんや、先天的な病気があったり予定より早く生まれてきた赤ちゃんは、長岡市や新潟市などの圏域外の病院への転院や搬送が必要でしたが、当センターの開設により、魚沼地域での対応が可能となり、圏域外への転院や搬送数は大幅に減少しました。



分娩を担う産科部門では、正常分娩はもちろん、早産や妊娠高血圧症候群、多胎妊娠といったハイリスク妊娠・分娩にも対応しており、母子ともに安全なお産を目指す体制を整えています。

また、新生児部門では、予定より早く生まれ未熟だったり、病気があったり、呼吸がうまくできないなど、病院での医療が必要な赤ちゃんのためのNICU（新生児集中治療室）とGCU（新生児回復期治療室）を備え、集中治療を行うと同時に、赤ちゃんの成長発達をサポートします。

NICU、GCUでは、24時間
ママとパパが会いたいときに赤ちゃんに会えます

“当センターは、24時間いつでも面会ができます。”

ママとパパが、会いたい時に、時間を気にせず、赤ちゃんの側で好きなだけゆっくりと過ごせる体制を整えています。赤ちゃんにタッチしたり、全身状態が安定してきたら、カンガルーケアを行ったりすることも可能です。仕事に行く前や、仕事帰りに会いに来られる方もいます。ご両親と一緒にあれば、ご兄弟、おじいちゃんやおばあちゃんも面会いただけます。



詳しくは
こちら



●がん診療連携拠点病院

魚沼地域のがん医療の中心的役割を果たします。

がん診療連携拠点病院は、「がん対策基本法」に基づき、全国どこでも質の高いがん医療を提供し、がん医療の均てん化を促進するために、二次医療圏に原則1ヶ所の設置を目指して整備されています。当院は、令和3年4月に新潟県から、地域がん診療連携拠点病院の指定を受けました。

魚沼医療圏において、がん治療体制の一層の充実を図るほか、がん相談支援センターを設置し、専門のスタッフががん治療や療養全般にわたるご相談を無料で受け付けています。また、医療スタッフを対象とした緩和ケア研修会や、がん患者さんやそのご家族の交流の場として、定期的ながん患者サロンを企画・開催しています。

詳しくは
こちら



●からだにやさしい治療センター

多数の診療科で低侵襲治療を提供します。

からだにやさしい（低侵襲）治療は、お腹に数ヶ所の小さな穴を空け、腹腔鏡を用いて病変を切除する腹腔鏡手術のように、従来の治療に比べて体への負担を軽減しながら、必要な効果を得られる治療法です。患者さんにメリットが大きい反面、高い技術や専門的トレーニングが要求される治療方法という側面も持ちます。

魚沼基幹病院では、開院当初から各種専門医による低侵襲治療を実施してきました。多様な診療科の専門性を上手に活かし、魚沼地域で高いレベルの地域医療を提供することで、一人でもたくさんのいのちを支えていくことが、わたしたちの目標です。

詳しくは
こちら



からだに
やさしい
治療センター



地域の医療を担う「人材育成」

詳しくは
こちら



専門医療を担う人材の育成に力を入れ、地域全体の医療レベルの向上を目指します。



●総合診療マインドを持つ専門医の育成を

地域医療・高度医療を担う「医療人」の育成は、魚沼基幹病院が担う使命の一つです。当院には新潟大学地域医療教育センターが併設されており、センターに配置された特任教員が、当院での診療を担当しながら、医学生の臨床実習、卒後の臨床研修、専門研修を受け入れ、若い医師の指導も行っています。

これからの地域医療には、総合診療の技能と使命感を持った専門医が求められています。当院は、自分の専門外の医療もある程度診ることができ、必要に応じて専門医に紹介する総合診療マインドを持つ人材の育成を目指しています。

医療を目指す方へ



当院では、チーム医療を大切に考え、医師だけでなく、医療に従事する多職種の医療スタッフが、それぞれの専門性を活かし、連携・協力してきめ細やかに患者さんの病状に対応しています。当院は一緒に魚沼地域の医療を支え、チーム医療に取り組む、新しい仲間を求めています。詳しくは当院ウェブサイトの「医療を目指す方へ」をご覧ください。

詳しくは
こちら



●様々な職種の医療人のキャリアアップを支援

育成の対象は医師に限りません。看護師、薬剤師、検査技師、リハビリスタッフなど、幅広い職種の医療人のキャリアアップにつながる教育・研修機能を強化しています。当院では、教育研修推進部の下、各部署で様々な研修を企画・運営し、病院全体の人材育成につなげています。

当院は令和4年度から新潟大学医学部保健学科の認定看護師教育の実習施設になりました。令和5年度からは、看護師の特定行為研修の研修機関にも指定されました。当院で在宅看護の特定行為研修ができる体制を整え、地域医療を担う人材の育成に貢献します。



●地域全体の医療レベル向上を目指して



地域医療連携を進めるためには、魚沼圏域全体の医療人材の育成も必要です。地域内の医療機関に所属する新人看護師を対象とした研修会を開催し、地域全体のレベルアップを図っています。また、地域の医療機関の看護部長や事務部長は定期的に連絡会を開催し、情報を共有しています。保健所と連携しながら、当院の感染症認定看護師が介護・福祉施設を訪問し、感染予防の指導も行っています。



魚沼基幹病院が提供する医療体制と検査体制

詳しくは
こちら



●医療体制

職種垣根を越えた多職種連携へ。

これからの医療に必要とされるチーム医療を実践しています。

基幹病院を支えるのは、多職種連携によるチーム医療です。医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーション療法士、事務などの様々な職種のスタッフが連携し、安全でより良い医療が提供できるように取り組んでいます。当院には、職種横断で編成された医療安全管理、緩和ケア、感染制御、栄養サポート、褥瘡対策等のチームがあり、多職種の知見を連携させることで有効な対策につなげています。



●検査体制

検査のスピードと精度を両立させ、信頼性の高いデータを安定提供。

救急医療、高度医療を支えます。

検査部門の役割は、医師が適切な判断を下し、患者さんに最適な治療を行うための検査データを届けることです。放射線部門では、放射線被ばく線量を抑えながら、より高品質な画像をより速く提供することで、迅速かつ正確な診断治療をサポートします。臨床検査科は、2018年に「国際標準規格」ISO15189認証を取得しました。今後は、認定の維持に向け、検査品質の担保に努め、継続的に改善を進めていきます。

情報発信

●病院ホームページ

uonuma-kan-hospital.jp



魚沼基幹病院

検索



●住民向け広報

住民向け広報誌「きかんのみかた」を定期的に発行し、積極的な情報発信に努めます。

●SNS配信

各種SNSにて、その特長に合わせた情報を配信。

FacebookやTwitterでは、ブログの更新情報やアンケート結果の公開、YouTubeでは公開講座や各種紹介動画、Instagramでは、実際に働いているスタッフが病棟の雰囲気や日常について投稿しています！ぜひフォローをお願いします。



Facebook



Twitter



YouTube



Instagram

院内のご案内



- 1F**
- 総合受付
 - ブロック外来受付
 - ブロック外来受付
 - 1~6 中央受付
 - 7 自動精算機
 - 8 院外処方せんFAX
 - 10 再来受付機
 - 外来支援コーナー
 - 11 おくすりお渡し窓口
 - 12 放射線受付
 - 13 放射線治療科
 - 14 内視鏡受付
 - 15 救急外来受付
 - 16 デイケア受付
 - 17 患者サポートセンター
がん相談支援センター
 - 18 入退院支援コーナー

- 2F**
- C ブロック外来受付
 - D ブロック外来受付
 - 20 生理検査室・中央検査室
 - 21 通院治療室
 - 22 中央処置室
 - 23 外来療養指導室
 - 25 おくすり相談室
 - 26 栄養相談室
 - C27 緩和ケア室

- 3F**
- 30 リハビリテーション室
 - 31 人工透析室
 - 32 手術室
 - 33 救命救急・外傷センター

最新の情報は



病院概要



- 開院** 平成27年6月
- 運営者** 一般財団法人新潟県地域医療推進機構
- 理事長 / 病院長** 鈴木 榮一
- 許可病床数** 454床
(内訳:一般病床400床(救命救急センター14床を含む) 精神病床 50床(閉鎖病棟) 感染症病床 4床)
- 診療科目** 総合診療科 / 循環器内科 / 内分泌・代謝内科 / 血液内科 / 腎臓内科 / リウマチ・膠原病科
呼吸器・感染症内科 / 消化器内科 / 脳神経内科 / 精神科 / 小児科 / 消化器外科・一般外科 / 乳腺・内分泌外科
心血管外科 / 呼吸器外科 / 整形外科 / 形成外科* / 脳神経外科 / 皮膚科 / 泌尿器科 / 眼科 / 耳鼻咽喉科
産婦人科 / 放射線治療科 / 放射線診断科 / 麻酔科 / 救急科 / リハビリテーション科 / 矯正歯科 / 歯科口腔外科
病理診断科 (*現在診療を行っておりません)

外来受付時間

※診療科によって受付時間が異なります



アクセス



- バス** 下記駅より各種バスでお越し頂けます
・浦佐駅(市民バス・路線バス)
・小出駅(路線バス)
・六日町駅(路線バス)
※詳細は、バス運行会社にご確認ください。
- 車** 関越自動車道の大和スマートICを利用する場合
・練馬IC ⇄ 大和スマートIC 約2時間10分
・新潟西IC ⇄ 大和スマートIC 約1時間20分
※大和スマートICから車で 約5分
- 電車** 上越新幹線 浦佐駅を利用する場合
・東京駅 ⇄ 浦佐駅 約1時間30分
・新潟駅 ⇄ 浦佐駅 約40分
※浦佐駅から徒歩 約20分
タクシー 約5分